

科目名	環境経済学 Environmental Economics						
科目担当者	宮下 稔規 MIYASHITA Toshiki						
単位数	2	配当年次	3年	授業形態	講義	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(2)(4)
授業の概要	<p>この授業では教科書をもとに、各環境問題に対して経済的な分析を行い、現状とそれに対する有効な経済政策について学習する。各授業の内容は独立であるが、経済学の外部性の問題を理解しなければ、問題に対する解決策を見出すことは難しくなる。そのため、第3回で外部性を扱った後に、さまざまな環境問題について学習していく。</p> <p>この授業では環境問題というトピックを扱いながら、それらに対して経済学の枠組みでどのような解決策があるかを受講者一人一人が考えながら進めていく。</p>						
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 外部性が発生する市場における非効率を説明することができる。</li> <li>② 環境汚染による加害者と被害者の状況を理解し、コースの定理による解決策を導出することができる。</li> <li>③ エネルギー政策の現実を理解し、ワイツマンの定理を説明することができる。</li> <li>④ ゴミの有料化の政策の意図を理解し、不法投棄の現状について議論することができる。</li> <li>⑤ 枯渇性資源と再生可能資源の違いを理解し、資源の採掘量のあり方を議論できる。</li> <li>⑥ 企業の環境配慮の活動について経済学的な分析を行うことができる。</li> <li>⑦ 農村や農業の今後のあり方について、経済学的な主張を行うことができる。</li> </ol>						
授業計画・内容	1	ガイダンス					
	2	経済と環境					
	3	外部性と市場の失敗					
	4	環境汚染とコースの定理					
	5	排出量取引					
	6	地球温暖化：炭素税					
	7	エネルギーと省エネ政策					
	8	ワイツマンの定理					
	9	廃棄物：ゴミの有料化と料金設定					
	10	廃棄物：不法投棄					
	11	枯渇性資源					
	12	再生可能資源					
	13	企業と環境配慮					
	14	農業と環境					
	15	授業のまとめ					
授業外学修 (事前学修)	教科書の該当部分をよく読み込み、環境経済の考え方や環境問題等に触れ、重要な点をまとめておくこと。(毎週2時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	授業内で扱った語句や練習問題を中心に復習を行うこと。 特に練習問題で扱ったトピックは自身の主張が言えるように復習、調査を行うこと。 (毎週2時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	期末試験					100%	①,②,③,④,⑤,⑥,⑦
成績評価基準	<p>秀：(評点90点以上) 到達目標を極めて高い水準で達成している場合</p> <p>優：(評点80点～89点) 到達目標を高い水準で達成している場合</p> <p>良：(評点70点～79点) 到達目標を一定の水準で達成している場合</p> <p>可：(評点60点～69点) 到達目標を最低限の水準で達成している場合</p> <p>不可：(評点60点未満) 到達目標に達していない場合</p>						
教科書	特に指定しない。						

参考文献	大沼あゆみ, 柘植隆宏 著『環境経済学の第一歩』, 有斐閣ストゥディア 八木信一, 関耕平 著『地域から考える環境と経済』, 有斐閣ストゥディア
その他	ミクロ経済学 I を履修済みであることが望ましい。